

関東民放クラブだより

ローカル制作映画が絵本に：

時田 美昭 (TENY)

テレビ新潟が2年前に制作したドキュメンタリー映画『夢は牛のお医者さん』が、6月末に絵本とジュニア文庫になって出版されました。

この映画は、新潟県の小さな小学校に子牛が「入学」した事がきっかけで、獣医師になると決めた一人の少女を26年間テレビで追い、映画化したものです。



『夢は牛のお医者さん』



©TeNY

2年前の東京での公開初日に、監督舞台挨拶を終えた私に声をかけたのが、映画を見て目に涙をたためていた小学館の児童図書担当副編集長。「いま観た感動をもっと多くの子どもたちに伝えたい」との言葉がうれしかった。

映画は「日本映画ペンクラブ賞」

や「日本映画批評家大賞」等を受賞しましたが、上映はミニシアターが中心で、多くの子どもにも「夢は努力すれば叶う」というテーマが届いているのか自信が持てませんでした。

この度、私から小学館へ絵本の出版を打診したところ、なんとノベライズのジュニア文庫も同時出版しようを持ちかけられました。上映開始から2年が経つたいま、映画では描ききれなかった大切な部分で、新たな「活字」と「挿絵」になって、夏休みの子どもたちに届いている。



♪絵本として、小説としてさらにおおくの子供たちへ♪

《テレビが育てた大きな夢です。時田さんは現役の方ですが、無理をお願いして書いて頂きました。》

新潟支部

お殿様が食べた料理を

味わいましょう

武井久美子 (NBS)

美味しいものと旅を楽しむ、関東民放クラブ長野支部「グルメとトランプの会」は、「江戸時代にお殿様が食べた料理を味わう」ことになりました。10月12日に、古文書に基づいて当時の料理を厳密に再現した美味を、長野県須坂市の「豪商の館 田中本家博物館」で頂きます。

田中本家は江戸時代の大地主を兼ねた北信濃屈指の豪商で、敷地面積三千坪の博物館は、母屋の屋敷を取り囲む20もの土蔵があり、江戸時代中期から昭和までの、美術品・古文書などの資料がぎっしり詰まっています。地元では「近世の正倉院」とも呼ばれているほどです。

「江戸時代にお殿様が食べた料理」は、同家に伝わる多くの古文書から江戸時代に殿様に供した料理の記録をもとに、田中本家博物館と地元のお老舗「割烹 能登忠」が、試行錯誤しながらできるだけ忠実に再現したものです。

今回は、「嘉永元年(一八四八年)十月、上田藩主名代として田中本

家を訪れた上田藩奉行職大平多喜治殿をご接待した際の料理」です。

使われる食材は、鯛、メジマゴロ、鮫鱈、鱈、海素麺など豪華な海の幸が揃いました。その「江戸時代の美味」を味わう器がまた美しい。客に出す伊万里焼・京漆器・輪島漆器など食器はすべて江戸時代のもの。



田中本家正面

今回の催しの正式名は「秋の江戸時代料理再現食事会」です。

須坂市や田中本家の歴史、料理の解説なども聞かせてもらい、博物館内と池泉廻遊式庭園の鑑賞もします。長野支部以外の方の参加も歓迎です。会費は一万五千元。参加ご希望の方は、10月5日までに長野支部幹事の武井(026・232・2311)まで。